

第6学年1組 国語科学習指導案

日 時：令和7年 6月16日（月）

場 所：6年1組教室（北舎2階）

授業者：

1 単元名

主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう

2 教材名

「時計の時間と心の時間」

3 単元目標

筆者の主張と、それを支える事例の関係をとらえながら読み、時間について考えたことを伝え合おう。

4 単元について

本単元では、筆者の主張をより分かりやすくするために、事例を有効的に取り入れたり、事例の補足説明を入れて論を展開したりしていることを理解することを目指す。その上で、筆者の主張に対して共感・納得したり、疑問に思ったりしたことを、自分の経験を踏まえて書く活動を行う。

・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて趣旨を把握することができる。

【C 読むこと(1)ア】

本教材は、「時計の時間」と「心の時間」といった二つの時間の捉え方を題材にした文章であり、双括文となっている。また、事例を通して「心の時間」の特性を述べ、二つの時間の捉え方のズレを理解しながら、筆者の主張を展開する教材である。読者の興味を惹きつけながら、筆者の主張に説得力を持たせるために、読者が体験しやすい、または想像しやすい事例をあげていることが特徴である。「笑うから楽しい」とは少し異なる構成であるため、複数の事例が筆者の主張とどのようにつながっているか、「笑うから楽しい」の学習を基に考える必要がある。

5 児童の実態

説明的な文章の教材として、5年生では、筆者の考えの中心は文章の初めや終わりに書かれていることが多いことや、挙げられている事例や理由には筆者の意図が含まれているということを学習している。6年生の説明的な文章としては本単元が初めてである。

学習意欲が高く、自分の考えをもととする児童が多い。また、児童同士の交流にも積極的に取り組み、考えを広げることができる。書かれていることを見つけることはできるが、書かれている内容に込められた意図を考えることについては個人差がある。また、自分の意見を書く際に、本文を基に考えを作ることが難しい児童がいる。そのため、交流を通して仲間の意見を取り入れながら、自分の意見を言葉にまとめることができるようにする。

6 研究にかかわって

研究内容Ⅰ つけたい力を明確にした単元構成の工夫

① つけたい力を明確にした単元指導計画の工夫

本単元では事例の効果を理解し、筆者の主張と事例の関係を叙述を基に捉え、文章全体の構成を理解する力をつけさせたい。

そのためにもまず、「笑うから楽しい」の学習で、文章の中で筆者の主張と事例が書かれている段落を捉え、双括文であることを理解する。そして、事例が文章のどの段落とつながっているかということや、筆者が事例を挙げた理由を考える活動を通して、筆者の主張と事例の関係及び事例の有効性を理解する。

研究内容Ⅱ 大切な言葉や表現効果に着目し、考えを深める指導方法の工夫

① 目的に応じた的確に読むための指導援助の工夫

筆者の主張と事例の関係を捉えることができるように、まずは、各段落の重要な文を押さえる。そのうえで事例の有無によってどのような効果があるのかや事例がどこを詳しくしているのかということを問い返す。

また、構造的な板書やワークシートによって、事例と理由のつながりを見ることができるようになる。

② 表現活動につながる支援の工夫

まとめや主張に対する自分の考えを書くときに、「言葉の宝箱」を活用して、より伝えたいことが伝わる言葉を選ぶことができるようにする。また、筆者の主張に対する自分の考えを書く際には、教科書の例文を見て、書く内容や使える表現を見つける。ICT 機器やヒントカードを使って児童が思考を整理し、表現できるようにする。

研究内容Ⅲ 学びの高まりが実感できる、他教科他領域との関連の工夫

① 既習内容を活用する場の設定

筆者の主張と事例の関係を図で表すことで、今後国語や総合的な学習などで自分の考えを書く機会において、自分の考えを整頓できるようにする。図を使って考える中で自分の主張との繋がりが、事例の有効性を吟味できるようにし、より相手に伝わりやすい文章を書くことができるようにする。

6 単元指導計画

次	時	ねらい	主な学習活動	着目させたい 語句・表現	評価基準
単元を貫く課題：筆者の主張と事例にはどのような関係があり、事例にはどのような筆者の意図があるのだろうか。					
第一 次	1	「笑うから楽しい」での筆者の主張と挙げられている事例の関係を理解することができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">筆者の主張と事例はどのように述べられているのだろうか。</div> <p>「笑うから楽しい」を読み、筆者の主張と事例が書かれている段落を理解し、構成を図で表す。</p>	主張や事例など、大切な文は初めにあることが多い。 「初め・中・終わり」	【知・技】 「笑うから楽しい」での筆者の主張と挙げられている事例の関係を理解することができる。
	2	「笑うから楽しい」での事例に込められた筆者の意図を理解することができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">事例には、どのような筆者の意図が込められているのだろうか。</div> <p>事例の順番や実験や事実を事例として挙げたことに込められた筆者の意図を考える。</p>		【思・判・表】 「笑うから楽しい」での事例に込められた筆者の意図を理解することができる。
第二 次	3	「時計の時間と心の時間」を読んだうえで、学習の流れを理解することができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「時計の時間と心の時間」を読んで学習計画をたてよう。</div> <p>「時計の時間と心の時間」を読んで、「笑うから楽しい」の学習を基に学習計画を立てる。</p>	筆者の主張と事例	【知・技】 「時計の時間と心の時間」を読んだうえで、学習の流れを理解することができる。
	4	「時計の時間と心の時間」での筆者の主張と事例の関係を理解することができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">筆者の主張と事例はどのように述べられているのだろうか。</div> <p>「時計の時間と心の時間」での筆者の主張と事例を見つけ、構成を図で表すことができる。</p>	このように、 例えば 実験○	【知・技】 「時計の時間と心の時間」での筆者の主張と事例の関係を理解することができる。
	5 (本 時)	「時計の時間と心の時間」で挙げられた事例や事例の順番に込められた筆者の意図を考える活動を通して、複数の事例をあげるよさに気づき、キーワードを使ってまとめることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">なぜ筆者は、複数の事例をあげ、しかも、この順番であげているのだろうか。</div> <p>挙げられている事例のよさについてや事例の順番について考え、事例に込められた筆者の意図を考える。</p>	説得力 経験—自分事 実験—誰もが 納得する	【思・判・表】 「時計の時間と心の時間」で挙げられた事例や事例の順番に込められた筆者の意図を理解し、表現することができる。

	6	筆者の主張に対して自分の考えを持つことができる。	<p>筆者の主張に対する自分の考えをもとう。</p> <p>筆者の主張に対して、共感・納得・疑問に思ったことを、自分の経験を踏まえて書く。</p>	筆者の主張	【思・判・表】 筆者の主張に対して自分の考えについて経験を踏まえて書くことができる。
第三次	7	筆者の主張に対する自分の考えを仲間と交流し、共通点や相違点を考えることができる。	<p>自分と仲間の考えには、どのような共通点や相違点があるだろうか。</p> <p>筆者の対する自分の考えを仲間と交流し、共通点や相違点を見つける。</p>	自分の考え・理由や具体例・まとめ	【主】 自分から進んで交流をし、多くの共通点や相違点を見つけることができる。

他教科・他領域との関連指導

教科・領域等	学習活動, 身に着けた力を生かす場面等	評価基準・観点
道徳	自分の姿を振り返る際に、学習内容と自分の経験を結び付けて考えを作る。	【思・判・表】(発言・プリント) 学習内容や自分の経験と結び付けて、自分の姿の振り返りを分かりやすく伝えることができる。

7 本時の展開 (5/7)

(1) 本時の目標

「時計の時間と心の時間」で挙げられた事例や事例の順番に込められた筆者の意図を考える活動を通して、複数の事例を挙げる良さに気付く、キーワードを使ってまとめることができる。

(2) 本時の展開

過程	児童の学習活動	指導・援助												
つかむ	<p>1 前時までを振り返る。 ・事例は実験と経験があり、全部で四つだった。 ・筆者の主張は一段落と八段落にあった。 ・二段落と七段落では「心の時間」の特性が書いてあった。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。 ・事例は四つもあるが、何か意図があるのだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> なぜ筆者は、複数の事例をあげ、しかも、この順番であげているのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の板書や自分のノートを見ることで、内容を振り返ることができるようにする。 												
ふかめる	<p>3 それぞれの事例のよさを考える。 ○なぜ、それぞれの段落があるのだろうか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">6(実験3)</th> <th style="width: 25%;">5(実験2)</th> <th style="width: 25%;">4(実験1)</th> <th style="width: 25%;">3(経験)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もがすぐに試せる。 ・ちがう「心の時間」の感覚をもっているという主張があるから。 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「身の回りの環境」によって時間の進み方が違うという主張があるから。 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりにくい。 ・「身の回りの環境」によって時間の進み方が違うという主張があるから。 ・数字があるから、説得力がある。 ・実感しやすい。 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なことに感じる。 ・「確かに」と思う。 ・自分も経験がある。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ちがう感覚</td> <td style="text-align: center;">身の回りの環境</td> <td style="text-align: center;">体の状態</td> <td style="text-align: center;">心の状態</td> </tr> </tbody> </table> <div style="margin-top: 20px; text-align: center;"> </div> <p>◎経験と実験の両方を事例として挙げたのは、なぜだろうか。 ・経験があると自分事となるが、みんなが納得しないかもしれない。 ・実験があるとみんなが納得するが、身近なことと感じられないかもしれない。</p> <p>4 事例が挙げられた順番に込められた意図を考える。 ◎どうして経験から先に、書かれているのだろうか。 ・三段落の初めに「分かりやすい例が」と書かれている。 ・読み手にとって理解しやすい例から書かれているのではないか。 ・実験も自分で行いやすいものから書かれている。 ・五段落のような実験からだ、理解しにくい。</p>	6(実験3)	5(実験2)	4(実験1)	3(経験)	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もがすぐに試せる。 ・ちがう「心の時間」の感覚をもっているという主張があるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「身の回りの環境」によって時間の進み方が違うという主張があるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりにくい。 ・「身の回りの環境」によって時間の進み方が違うという主張があるから。 ・数字があるから、説得力がある。 ・実感しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なことに感じる。 ・「確かに」と思う。 ・自分も経験がある。 	ちがう感覚	身の回りの環境	体の状態	心の状態	<ul style="list-style-type: none"> ・三段落のみ、全体で考える。 ・机間指導の中で評価し、着目する言葉や表現について読み取りをしている児童を把握し、話し合いを構想する。 ・机間指導での児童把握をもとに、意図的指名などを行うことで話し合いを焦点化させるよう組織化する。 ・5段落は、難しい実験であることに気付いた場合、難しくても事例として挙げた筆者の意図を問う。その際に前時に押さえた7段落の冒頭部分をヒントカード1として提示する。 <p>◎事例が反対の場合どうなるかということを問い、順番に関わる本文の言葉に着目できるようにヒントカード2を提示する。</p>
6(実験3)	5(実験2)	4(実験1)	3(経験)											
<ul style="list-style-type: none"> ・誰もがすぐに試せる。 ・ちがう「心の時間」の感覚をもっているという主張があるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「身の回りの環境」によって時間の進み方が違うという主張があるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりにくい。 ・「身の回りの環境」によって時間の進み方が違うという主張があるから。 ・数字があるから、説得力がある。 ・実感しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なことに感じる。 ・「確かに」と思う。 ・自分も経験がある。 											
ちがう感覚	身の回りの環境	体の状態	心の状態											
まとめる	<p>5 まとめを書く活動をする。 ・着目し深めた言葉「キーワード」や表現を使って、課題に対するまとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 複数の事例があると説得力がうまれる。経験があることで読み手が自分事として捉えやすくなり、実験があることで誰もが納得できる根拠がうまれる。 </div> <p>6 次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめを ICT 機器で写真を撮り、どの児童も参考にできるようにする。また、【まとめシート】にも残し、学習の足跡を残す。 ・まとめに、事例が読み手にとって理解しやすい順番に書かれていることにも触れていた場合は、◎。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思・判・表】(発言・ノート)</p> <p>挙げられた事例や事例の順番に込められた筆者の意図を理解し、キーワードを使ってまとめることができる。</p> </div>												